研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号: 30102

研究種目: 基盤研究(B)(一般)

研究期間: 2015~2019

課題番号: 15H03213

研究課題名(和文)形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異

研究課題名(英文)Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and

Variables

研究代表者

時崎 久夫 (Tokizaki, Hisao)

札幌大学・地域共創学群・教授

研究者番号:20211394

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文): 言語の形態統語構造(語や句、節の内部構造)が音声にどのように反映されるか、その仕組みを、ノーム・チョムスキーらによる生成文法の枠組みで研究した。生成文法の現在の方策であるミニマリスト・プログラムでは、統語計算部門(文法)において、2つの語や要素の結合によって集合が作られ、それにさらに1つの語や要素が結合して、節や文ができるとされる。その集合の構造が、強勢や発音の区切りなどによって音声に表現(外在化)されるということを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義20世紀の生成文法では、統語部門(文法)の中に、世界の言語に共通する普遍文法と、語順などの各言語で異なる現象を扱うスイッチのようなパラメーターを仮定していた。しかし、本研究では、近年のミニマリスト・プログラムに基づき、言語の差はすべて各言語の音韻の特徴から生じるという仮説を提出し、語順や複合語の生産性などは、語の中の強勢の位置が元になって決まるということを論じた。例えば、日本語は語頭に強めがあるため、目的語・動詞の語順になるが、英語は語末から3つめまでに強勢があるため動詞・目的語の語順になる。

研究成果の概要(英文): In the current framework of generative grammar, we studied how the structure of words, phrases and clauses are mapped onto phonology (speech sounds). The minimalist program of linguistic theory by Noam Chomsky assumes that two syntactic objects (e.g. words) are combined (merged) together to make a set (e.g. a phrase), with which another syntactic object merges to make a larger set. We argued that the structure of sets (phrases) are mapped (Externalized) onto phonology with stress and phonological boundaries.

研究分野:言語学

キーワード: 外在化 文法 インターフェイス 音韻論 統語論 パラメター 類型論 ミニマリスト・プログラム 生成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様 式 C-19、F-19-1、Z-19(共通)

1.研究開始当初の背景

統率束縛(GB)理論においては、言語間の差異を統語演算体系内部のパラメターで説明する試みがなされていたが、90 年代初頭から、説明的妥当性 / 言語習得の観点から、狭い意味での統語演算体系 (narrow syntax) 自体ではなく、その外にある認識可能 (detectable) な体系に言語間の差異を求めるようになってきた (Chomsky 2001)。Berwick and Chomsky (2011:37) が指摘するように、内的な統語構造物 (internal syntactic objects) を外的な感覚運動体系 (sensory-motor system) で利用できる形に変換し外在化 (externalize) する形態音韻部門が、言語の多様性を説明する上で重要な役割を果たすと考えられ始めた。この外在化の射程は広く、統語構造物の線形化や形態的・音韻的現象およびこれらの相互作用など、様々な観点で研究する必要があった。また、EPP などの統語素性に頼ってきた分析も、Richards (2010) などの音韻による再分析が始まっており、Richards (2014) では、Tokizaki (2011) などの提案が取り入れられて、本研究と影響し合っていた。このような背景の中で5年間の研究を行った。

2.研究の目的

本研究では、統語部門における演算プロセスは言語に関わらず均一(uniform)であるとの考えのもと、統語構造物を音声形式 (PF)に写像する外在化の過程における形態および音韻・音声に関わる演算部門の特性とそれらの関係を明らかにすることを目指す。具体的には、(i) それぞれの部門間の相互関係、(ii) パラメターの特性、(iii) 写像過程におけるそれぞれの部門の位置づけ、に関する理論的モデルを構築し、経験的に検証していった。

3.研究の方法

研究代表者は分担研究者と打ち合わせの上で、それぞれが専門とする細目の研究を決定し、個々に研究を行う。その成果を公開の研究発表会で定期的(年2回)に報告し、全体で検討した。また、日本英語学会・日本言語学会を始めとする国内や国外の学会でワークショップやシンポジウムを企画し、研究成果を広く紹介した。さらに、分担研究者以外にも、国内・国外に参加を呼びかけて、国際ワークショップを複数回(隔年)開き、成果を広く発表し、検討した。

国外の研究者とも交流し、ワークショップへの招聘を含め、研究の相互進展に努めた。さらに、この分野の国内外の若手研究者の育成も視野に入れてワークショップを運営した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

統語部門における演算プロセスは言語に関わらず均一 (uniform) であり、語順などの、言語の差異は、各言語の音韻特性の差異に基づくという普遍統語論・パラメター音韻論の仮説 (Universal Syntax and Parametric Phonology (USPP)) を具体的に検証した。まず、統語部門では、併合 (Merge)という、1 対の語や句を組み合わせる操作によって、より大きな集合 (句など)が作られるが、この段階では順序はない。この集合が音韻部門に転送されて外在化されるときに初めて語順が決定されることになる。これは、Uriagereka (1999)の比喩を使えば、宙につるされたモビールのようなものと言える。



本研究では、この語順の決定が各言語の音韻特性、特に強勢の位置によるものであるという説を示し、具体的な言語で実証を試みた。例えば、ドイツ語などのゲルマン諸語は、語や句の強勢が前方にあり、目的語ー動詞のような主要部後行の語順となるのに対し、フランス語などのロマンス諸語では、語や句の強勢が後方にあり、動詞ー目的語のような主要部先行の語順となる。この強勢位置と主要部位置の相関は、世界の言語に広く見られることを示した。強勢位置と主要部位置が相関する理由としては、強勢は構造の深いところに置かれるため、動詞のような単一の要素ではなく、その目的語(補部)のような句(集合)に置かれるためであることを論じた。語や句の強勢を前方に持つ言語は、目的語ー動詞のような主要部後行の語順に音声化(外在化)する必要があり、語や句の強勢を後方に持つ言語は、動詞ー目的語のような主要部先行の語順に音声化(外在化)する必要がある。



このようにして、音韻と語順の相関を理論的に説明することができた。主要部と補部の語順が 異なる範疇で一貫している言語は、すべての範疇で、その大きさによらず同じリズムを持つと仮 定すれば説明できる。しかし、範疇によって主要部と補部の語順が異なる、いわゆる不調和語順 の言語が問題となる。

まず、語や複合語、名詞句などの小さな範疇で主要部後行語順をとり、動詞句や従属節などの大きな範疇で主要部先行語順をとる英語などの言語は、語強勢が語末音節から語頭にかけていくつまで許容するかということに応じて段階的に多数が存在することを明らかにした。

さらに、これにも当てはまらない言語についても、その音韻を詳しく見ていくことで、語順が 説明できることを論じた。具体的には、ドイツ語と中国語を取り上げた。ドイツ語では名詞句、 形容詞句、動詞句などで主要部後行語順をとるが、決定詞句、前置詞句、従属節では主要部先行 語順をとる。これは、ドイツ語が本来、語幹第1音節に強勢を持つことによる。強勢を持たない 接頭辞を許すのと平行して、機能語であり、強勢を持たない決定詞、前置詞、従属接続詞がそれ を主要部とする句や節に先行することを許すのである。

また、中国語の音韻はドイツ語と、強勢に関して鏡像関係にあることを論じた。中国語では、 変調(トーン・サンディー)が語や句の末尾で起こるので、語末に強めがあると考えられ、多く の範疇の句で主要部先行語順となる。

このように、一貫しない語順を持つ言語についても、その音韻システムを精査することにより、 語順との関連が説明できる。よって、こうした言語も、音韻が語順を決定するという仮説を支持 するさらなる証拠と捉え直すことができる。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

近年のミニマリスト・プログラムでは、主要部と補部の語順を決定する主要部パラメターは外在化のパラメターであると考えているが、その具体的な仕組みは探求されていない。その中で、本研究は、統語構造を音韻部門に外在化する際に、各言語の音韻体系、特に語強勢などの強勢位置が主要部と補部の語順を決定するという説を提示し、その具体的な働きを世界の言語について示した。この研究成果については、国内外で、学会発表と論文の形で発表している。強い仮説であるため、反論も出てきているが(Irurtzun 2020)、インパクトを与えて外在化に関する議論を活性化させることができつつあると考えられる。

(3) 今後の展望

本プロジェクトでは、共時的な類型論に基づいて世界の言語について研究してきたが、歴史的な変異についても、同じことが言えると考える。共時的研究に加えて、通時的研究を行い、理論の検証に努めたい。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件(うち査読付論文 10件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 20件)

1.著者名	4 . 巻
Tokizaki, Hisao	1
2 . 論文標題	5 . 発行年
Word stress, pitch accent, and word order typology with special reference to Altaic	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
The study of word stress and accent: Theories, methods and data	187-223
The Study of Word Stress and document moorros, methods and data	107 223
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
http://doi.org/10.1017/9781316683101.007	無
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	<i>~</i> **
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4	1 44
1 . 著者名	4 . 巻
Tokizaki, Hisao	60
2 . 論文標題	5.発行年
Review of Phonological Typology by Matthew K. Gordon	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Studies in English Literature, English Number	91-97
ottatios in Engiron Erterature, Engiron number	31 37
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	
15章 Wind スクリング (プラブルオフラエク Fax が) 1 / なし	無無
40	////
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- -
1.著者名	4 . 巻
Tokizaki, Hisao	4
AA) 1977	- 7v (= k-
2.論文標題	5 . 発行年
Word-Stress Location and the Order of Subject and Verb: Preliminary Data Analysis	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization volume 4	105-114
Thenerogram External Parties V	100 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
おし	無
A C	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	- 4 . 巻
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Jiro INABA	- 4 . 巻 Vol.4.
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題	- 4.巻 Vol.4. 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA	- 4 . 巻 Vol.4.
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題	- 4.巻 Vol.4. 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題 Case and Ordering in Prepositional Phrases in German.	- 4.巻 Vol.4. 5.発行年 2019年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題 Case and Ordering in Prepositional Phrases in German. 3 . 雑誌名	- 4 . 巻 Vol.4. 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題 Case and Ordering in Prepositional Phrases in German. 3 . 雑誌名 Phonological Externalization.	- 4 . 巻 Vol.4. 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 73-92
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題 Case and Ordering in Prepositional Phrases in German. 3 . 雑誌名 Phonological Externalization. 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	- 4 . 巻 Vol.4. 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 73-92 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題 Case and Ordering in Prepositional Phrases in German. 3 . 雑誌名 Phonological Externalization. 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	- 4 . 巻 Vol . 4 . 巻 Vol . 4 . 巻 2019年 6 . 最初と最後の頁 73-92 査読の有無 無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Jiro INABA 2 . 論文標題 Case and Ordering in Prepositional Phrases in German. 3 . 雑誌名 Phonological Externalization. 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	- 4 . 巻 Vol.4. 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 73-92 査読の有無

	. 7/
1.著者名	4.巻
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley	21
2.論文標題	5 . 発行年
	2018年
H and L have unequal status	2010年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『音韻研究』	41-48
H BAN N I V O S	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	本誌の左伽
	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
カープンテクピスにはない。人はカープンテクピスが四年	
1.著者名	4.巻
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley	103
2.論文標題	5
	5 . 発行年
Existing and non-existing accents: the case of intervocalic /t/ in English	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Tohoku Gakuin University Review: Essays and Studies in English and Literature	13-21
Torrond January Harristy Neview. Essays and Studies III Eligiisti dilu Etterature	13-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
	/**
オープンアクセス	国際共著
	国际共者
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
Hisao Tokizaki	3
IIIDAU TURIZARI	ا
2 . 論文標題	5.発行年
Obligatory Contour Principle and Minimalist Syntax	2018年
G , ,	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization	73-83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
	_
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	_
4. ##4	1 4 244
1. 著者名	4 . 巻
Jiro Inaba and Hisao Tokizaki	3
2 . 論文標題	5 . 発行年
Head Parameters and Word Stress in German	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization	85-101
Thomorogram External (Eutron	00 101
	The state of the s
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
	 査読の有無 無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	無
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	無

4 5544	1 4 24
1 . 著者名	4 . 巻
Hisao Tokizaki	32
2.論文標題	5.発行年
Externalization, stress and word order	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
上智大学言語学会報	18-34
	10 01
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
	国际共有
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
Hisao Tokizaki	37
2 . 論文標題	5.発行年
Righthand Head Rule and the typology of word stress	2017年
regionalia fiedd fair aild tho typology of hold stross	20117
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
KLS (Kansai Linguistic Society)	253-264
In which is a second of the se	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
	<u> </u>
	4.巻
Hisao Tokizaki	2:21
IIISau Turizari	2.21
2 . 論文標題	F 整仁左
	5.発行年
Prosody and branching direction of phrasal compounds	2017年
1811 E	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Proceedings of the annual meeting of Linguistic Society of America	1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
http://dx.doi.org/10.3765/plsa.v2i0.4070	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている (また、その予定である)	
13 7777 EXC 0 CV. B (CX C C C V) & C C C C V	
1 英之夕	
1 . 著者名	4.巻
Yoshihito Dobashi	3
A *A	- 70 /- k-
2 . 論文標題	5 . 発行年
Termination of Derivation and Intonational Phrasing: A Preliminary Study	2018年
<u> </u>	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization	9-23
·	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	☆読の有無
	##
では、 なし	無
なし	
	国際共著

1 英名夕	
1.著者名 Magulagua - Kupi ug	4.巻
Nasukawa, Kuniya	21
2.論文標題	5.発行年
Z . 論文信题 Extending the application of Merge to elements in phonological representations.	2017年
Extending the application of weige to elements in phonorogical representations.	2017-
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of the Phonetic Society of Japan	59-70
The state of the s	55 . 5
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley	21
2 . 論文標題	5 . 発行年
H and L have unequal status	2018年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Studies	41-48
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
Hisao Tokizaki	2
AAA MATTI	- 77/
2.論文標題	5 . 発行年
Historical changes of word order and word stress: An introduction	2017年
0 hbbb/7	C = 271 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2
3. 雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization	83-100
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	本性の左征
	査読の有無
なし	無
オープンマクセフ	国際共革
オープンアクセス オープンアクセフトしている(また、その子字である)	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 英本存	4 **
	4 . 巻
1 . 著者名 Hisao Tokizaki and Jiro Inaba	4.巻
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba	2
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2.論文標題	5 . 発行年
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba	2
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures	2 5.発行年 2017年
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures 3 . 雑誌名	2 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures	2 5.発行年 2017年
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures 3 . 雑誌名	2 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures 3 . 雑誌名 Phonological Externalization	2 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 45-52
2.論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures 3.雑誌名 Phonological Externalization 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 45-52 査読の有無
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures 3 . 雑誌名 Phonological Externalization	2 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 45-52
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures 3 . 雑誌名 Phonological Externalization 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	2 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 45-52 査読の有無 無
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba 2 . 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures 3 . 雑誌名 Phonological Externalization 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 45-52 査読の有無

1.著者名	
	4 . 巻
Miyashita, Harumasa and Hisao Tokizaki	34
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
O *A	F 78/- F
2.論文標題	5 . 発行年
Ancrene Wisse における本動詞と目的語の相対的語順と借入語	2017年
	20
A 1841 G	6 BM BW 6 Z
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
JELS	98-104
0220	00 101
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
オープンデッセスとしている(また、この)をとめる)	
1.著者名	4 . 巻
Hisao Tokizaki	33
III SOU I UNI LANI	33
2 . 論文標題	5 . 発行年
	2016年
Prominence and structure of compounds	2010 年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
*****	119-144
English Linguistics	119-144
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
	国际八百
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1	1
1 . 著者名	4.巻
1.著者名 Kayono Shiobara	4.巻 79
—	_
Kayono Shiobara	79
Kayono Shiobara 2 . 論文標題	5.発行年
	79
Kayono Shiobara 2.論文標題	5.発行年
Example 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese	79 5.発行年 2016年
Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
Example 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese	79 5.発行年 2016年
 Kayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
 Xayono Shiobara A proposition in Japanese A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese A with A proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Linguistics 79) 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152
 Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
 Kayono Shiobara 2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無
 Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152
 Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無
 Kayono Shiobara 2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無
 Kayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無
 Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無
 Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著
 Kayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無
 Kayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻
 Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著
 Kayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47
 Kayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻
Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題	79 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 47 5.発行年
Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47
Xayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年
Xayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect	79 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 47 5.発行年
Xayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3 . 雑誌名	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
Kayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年
Xayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2.論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3.雑誌名	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
Kayono Shiobara 2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3. 雑誌名 Linguistic Inquiry	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 333-349
Kayono Shiobara 2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3. 雑誌名 Linguistic Inquiry	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 333-349
Kayono Shiobara 2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3. 雑誌名 Linguistic Inquiry	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 333-349 査読の有無
Kayono Shiobara 2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3. 雑誌名 Linguistic Inquiry	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 333-349
 Kayono Shiobara 2.論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3.雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2.論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3.雑誌名 Linguistic Inquiry 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 333-349 査読の有無
Rayono Shiobara 2 . 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3 . 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3 . 雑誌名 Linguistic Inquiry 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1162/ling_a_00213	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 333-349 査読の有無 有
Kayono Shiobara 2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese 3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Lingusitics 79) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect 3. 雑誌名 Linguistic Inquiry	79 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 143-152 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 47 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 333-349 査読の有無

4 ***	A 74
1 . 著者名	4.巻
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi	25
2	F 25/2/F
2. 論文標題	5.発行年
A prosodic account of -yo attachment in Korean	2016年
2 hh±+47	(見知に見後の方
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of East Asian Linguistics	213-241
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1007/s10831-016-9142-9	
10.1007/\$10831-016-9142-9	有
オープンアクセス	国際共著
	該当する
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	談当りる
1 英本の	1 2'
1 . 著者名	4 . 巻
Yoshihito Dobashi	2
2	F 361-7-
2.論文標題	5.発行年
Labeling and Phonological Phrasing: A Preliminary Study	2017年
2	C = 17 L = 14 A =
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization	1-23
117 200	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
+ +×-7++7	京 柳井芸
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
. ***	. M.
1 . 著者名	4.巻
Nasukawa Kuniya	1(1): 9
- AA NEW	- 7v /
2.論文標題	5.発行年
A precedence-free approach to (de-)palatalisation in Japanese	2016年
- 101	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Glossa: a journal of general linguistics	1-21
	**** o ** ***
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
http://dx.doi.org/10.5334/gjgl.26	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1. 著者名	4 . 巻
Nasukawa Kuniya & Phillip Backley	19
2.論文標題	5.発行年
The role of elements in the development of Japanese h	2016年
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
音韻研究	51-58
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無 無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

1 英名夕	1 4 **
1.著者名 Shiobara, Kayono	4.巻
Siliobara, Nayono	02
2.論文標題	5.発行年
A note on Japanese clause structure: Evidence from variations	2016年
A note on sapariese crause structure. Evidence from variations	2010—
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
英米文学評論 (Essays and Studies in British & American	23-31
ANATH IIII (ESSAYS and Ottories III DITTISH & AMOUNT ON	25-51
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無 無
60	~~~
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
3 777 CN Clored (Alexa 7777 CN Black	l
1,著者名	4 . 巻
Shiobara, Kayono	1
Siliobata, Nayolio	
	5.発行年
Are leftness and rightness rightly left in the syntax?: A preliminary study	2016年
	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization (ed.by H. Tokizaki), Sapporo University	75-84
□ 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	本芸の左便
	査読の有無
なし	無
 オープンアクセス	同脚井芸
	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
. #46	1 a 24
1 . 著者名	4 . 巻
1.者首名 Changguk Yim and Yoshihito Dobashi	4 . 含 25
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi	25
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題	25 5.発行年
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi	25
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean	25 5.発行年 2016年
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean	25 5.発行年 2016年
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yoshihito Dobashi	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 1
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yoshihito Dobashi	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain?	25 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 1 5.発行年 2016年
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3. 雑誌名	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 1
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2.論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3.雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Yoshihito Dobashi 2.論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain?	25 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 1 5.発行年 2016年
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3. 雑誌名	25 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 1 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2.論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3.雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Yoshihito Dobashi 2.論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3.雑誌名 Phonological Externalization	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 1 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 11-22
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Yoshihito Dobashi 2. 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3. 雑誌名	25 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 1 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2.論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3.雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Yoshihito Dobashi 2.論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3.雑誌名 Phonological Externalization	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 1 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 11-22
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3 . 雑誌名 Phonological Externalization 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	25 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 1 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 11-22 査読の有無
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1 . 著者名 Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3 . 雑誌名 Phonological Externalization	25 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 1 5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 11-22 査読の有無
Changguk Yim and Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean 3 . 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Yoshihito Dobashi 2 . 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain? 3 . 雑誌名 Phonological Externalization	25 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 1-29 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 1 5 . 発行年 2016年 6 . 最初と最後の頁 11-22 査読の有無 無

1 英型点	1 4 **
1 . 著者名	4 . 巻
Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi	47
2.論文標題	5.発行年
Prosodic Phrasing and That-Trace Effect	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3.雜誌名 Linguistic Inquiry	6. 歳例と最後の貝 未定
Linguistic inquity	不 是
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
to be assigned	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1. 著者名	4 . 巻
Hisao Tokizaki	1
2.論文標題	5.発行年
Phonological externalization of morphosyntactic structure: Universals and variables.	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization	1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
掲載論文のDOI(デンダルオプシェクト識別士) なし	(重読の有無) 無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 英型々	/ *
1 . 著者名 Hisao Tokizaki and Yasutomo Kuwana	4.巻 84
2	F 発生生
2 . 論文標題 Polar Question Particles and the Final-Over-Final Constraint	5 . 発行年 2016年
2	
3.雑誌名 『文化と言語』(札幌大学が国語学部紀典)	6.最初と最後の頁
『文化と言語』(札幌大学外国語学部紀要)	65-89
曷載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
Hisao Tokizaki	2
2 . 論文標題	5.発行年
Dvandva compounds and Obligatory Contour Principle	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
科学研究費「必異原理の射程と効力に関する研究」成果報告書	61-70
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
向東は開文のDOT(デジタルタンシェクトiidがlf) なし	重読の行無無無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1.著者名 稲葉治朗	4.巻
16未/40	·
2.論文標題	5 . 発行年
ドイツ語後域の線形化について	2016年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization.	85-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名	4 . 巻
r · 됩니다 Kuniya Nasukawa	1 1
2.論文標題	5.発行年
A Precedence-Free Approach to Palatalization and De-Palatalisation in Japanese	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Phonological Externalization	23-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
〔学会発表〕 計85件(うち招待講演 16件/うち国際学会 36件)	
1 . 発表者名	
Tokizaki, Hisao	
2 . 発表標題 Japanese accent in word-prosodic typology	
3.学会等名	
NAPhCX Tenth North American Phonology Conference(国際学会)	
4 . 発表年	
2018年	
1.発表者名	
Tokizaki, Hisao	
2.発表標題	
Alliteration and the holistic typology of Japanese	

3.学会等名

4 . 発表年 2018年

LACUS 2018 (Linguistic Association of Canada and the United States) (国際学会)

1.発表者名
Tokizaki, Hisao
2.発表標題
Prosody and the Position of Subject
2 24 6 17 17
3.学会等名
The 7th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure(国際学会)
4.発表年
2018年
1.発表者名
Tokizaki, Hisao
2.発表標題
Is Korean stress word-level or phrase-level?
15 korean Stress word-rever or pinase-rever:
3.学会等名
NINJAL ICPP 2018 (5th NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology)(国際学会)
4. 発表年
2018年
1.発表者名
時崎久夫
2 . 発表標題
併合はどこから始まるのか:強勢と境界
所占はことがられなるのが、選択と続か
2 34
3.学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第8回ワークショップ
4.発表年
2019年
1.発表者名
時崎久夫
2.発表標題
「バスク語の韻律と形態統語論」
/ ソフィフ 1月マン1月 〒 〜 川ノ次が炒し口口面 」
 当人生々
3.学会等名
3.学会等名 形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第8回ワークショップ
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第8回ワークショップ
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第8回ワークショップ 4.発表年
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第8回ワークショップ
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第8回ワークショップ 4.発表年
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第8回ワークショップ 4.発表年
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第8回ワークショップ 4.発表年

1.発表者名
Tokizaki, Hisao
Externalization and morphosyntactic parameters in Basque
3.学会等名
FLV, 50 years: New methods and trends in (Basque) linguistics International Conference(国際学会)
2019年
20184
1.発表者名
時崎久夫
2.発表標題
頭韻と全体的類型論
隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究研究成果発表会
4.発表年
2019年
1.発表者名
福葉治朗
2 . 発表標題
語順と音韻構造
」 3.学会等名
3 : デムサロ 日本独文学会春期研究発表会
TT-MA, I A E MINI / LIVE A
4 . 発表年 2018年
2018年
2018年 1 . 発表者名
2018年
2018年 1 . 発表者名
2018年 1 . 発表者名
2018年 1 . 発表者名 Jiro INABA
2018年 1 . 発表者名 Jiro INABA 2 . 発表標題
2018年 1 . 発表者名 Jiro INABA
2018年 1 . 発表者名 Jiro INABA 2 . 発表標題
1. 発表者名 Jiro INABA 2. 発表標題 Some Aspects of PPs in German.
2018年 1 . 発表者名 Jiro INABA 2 . 発表標題 Some Aspects of PPs in German.
1. 発表者名 Jiro INABA 2. 発表標題 Some Aspects of PPs in German.
1. 発表者名 Jiro INABA 2. 発表標題 Some Aspects of PPs in German. 3. 学会等名 The 7th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables.(国際学会)
1. 発表者名 Jiro INABA 2. 発表標題 Some Aspects of PPs in German. 3. 学会等名 The 7th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables.(国際学会) 4. 発表年
1. 発表者名 Jiro INABA 2. 発表標題 Some Aspects of PPs in German. 3. 学会等名 The 7th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables.(国際学会)

1 . 発表者名 稲葉治朗
2 . 発表標題 Morphosyntax of postpositions in German.
3 . 学会等名 「形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異」 第 8 回ワークショップ
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 Yoshihito Dobashi
2 . 発表標題 Workspace, Termination of Derivation and Intonational Phrasing
3.学会等名 English Linguistic Society of Japan, International Spring Forum, Workshop "Clarifying the Concept Workspace, Revising Merge to MERGE, and Identifying Consequences"(国際学会) 4.発表年 2018年
1 . 発表者名 Onuma, Hitomi & Kuniya Nasukawa
2.発表標題 Velar softening without precedence relations
3 . 学会等名 The 26th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2 . 発表標題 Element suppression: dependents are the first to go
3 . 学会等名 The 26th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK(国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 Distant
1. 発表者名
Nasukawa, Kuniya & Nancy Kula
2.発表標題
2 . 光衣标志图 "Epenthetic" consonants in nasal-consonant sequences: Consonant-vowel element interactions
Eponthictro consonants in nasar-consonant sequences. Consonant-vower erement interactions
3. 学会等名
Elements: State of the Art and Perspectives, The University of Nantes, France (国際学会)
Elomonto. State of the Alt and Felopoetives, the onlyelotty of Mailtes, Flance (四体于云)
4.発表年
2018年
2010 T
1.発表者名
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2.発表標題
2 . সংবাদ্ধির Phonological evidence for segmental structure: Insights from vowel reduction
Thomotogreat evidence for segmental structure. Histyffts from vower reduction
3. 学会等名
9 : チスサロ Phonology Forum 2018 (国際学会)
Thorrorgy Torum 2010 (
4.発表年
2018年
2010 T
1.発表者名
Nasukawa, Kuniya
2.発表標題
Voicing (VOT) contrasts and L2 acquisition
3 . 学会等名
Seminar, Departament de Filologia Catalana, Facultat de Filologia, Traducci(招待講演)(国際学会)
oominar, popultament ue i i iotogia vatarana, i adultat ue l'ilologia, i i adultoi (拍付調度)(国际子云)
4.発表年
4 . 光表中 2019年
4V1VT
1
1. 発表者名
那須川 訓也
2
2.発表標題
言語機能における音韻系の位置づけ
3 . 学会等名
九州大学言語学研究会(招待講演)
4 ·
4 . 発表年
2019年

1.発表者名 時崎久夫
2 . 発表標題 全体的類型論による日本語の韻律分析
3 . 学会等名 科学研究費 基盤研究(B) 隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究 2017年度研究成果発表会
4 . 発表年 2018年
1 . 発表者名 Harumasa Miyashita & Hisao Tokizaki
2 . 発表標題 Borrowing Stress Shift and Word Order Change in the History of English
3 . 学会等名 SLIN 18 ((Storia della Lingua Inglese) (国際学会)
4 . 発表年 2018年
1 . 発表者名 稲葉治朗・時崎久夫
2 . 発表標題 韻律から見たドイツ語の語順
3 . 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第 6 回ワークショップ
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 時崎久夫
2 . 発表標題 回帰的併合と強勢
3 . 学会等名 日本言語学会第 155回大会 ワークショップ:音韻部門における回帰的併合
4 . 発表年 2017年

1.発表者名
Tokizaki, Hisao and Jiro Inaba
2.発表標題
Variation of stress location and word order in prenominal adjective phrases
variation of Stress location and word order in prenominal adjective phrases
W. D. C.
3.学会等名
Workshop on Linguistic Variation at the Interfaces
4.発表年
2017年
1 . 発表者名
Tokizaki, Hisao
2.発表標題
Initial accent and head-finality in Japanese
3.学会等名
Workshop on 'Prosody and Prosodic Interfaces in Japanese and Korean' 25th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学
workshop on Prosody and Prosodic Interfaces in Japanese and Korean 25th Japanese/Korean Emgdistres conference (国际子 会)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
稲葉治朗・時崎久夫
2.発表標題
ドイツ語の主要部パラメターと語強勢
- WARE
3.学会等名
日本独文学会 秋季研究発表会
4.発表年
2017年
1
1. 発表者名
Tokizaki, Hisao
2.発表標題
Deriving Word Order Universals from Phonology
3.学会等名
ਰ ਜ਼ਰੂਰਰ Workshop: Phonological externalization of morphosyntactic structure: Universals and variables(国際学会)
ногканор. Hishorogical externalization of morphosyntactic structure. Universals and variables (国际子云)
4 X+C
4 . 発表年
2017年

1.発表者名
時崎久夫
2 . 発表標題
Externalization and word order: variables and universals
3 . 学会等名
・チェマロ 上智大学言語学会32回大会 ワークショップ(招待講演)
工省人子言語子云32四人云 ソークショック(指付碼牌)
4. 発表年
2017年
1.発表者名
Miyashita, Harumasa and Hisao Tokizaki
2.発表標題
Word order change, stress shift and Old French loanwords in Middle English
3 . 学会等名
5th edition of the international Biennial Conference on the Diachrony of English(国際学会)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
時崎久夫
2.発表標題
アルタイ諸語の韻律と語順
3.学会等名
第84回札幌学院大学言語学談話会(招待講演)
Nee - 11 10 10 1 100 () 11 10 10
4 . 発表年
2017年
4 77 7 4 6
1. 発表者名
稲葉治朗
2.発表標題
ドイツ語の代替え不定詞構文について
3.学会等名
「形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異」 第6回ワークショップ
, TV=r
4. 発表年
2018年

A DETAIL
1. 発表者名
土橋善仁
2 . 発表標題
2. 元代信題 統語と音韻の関係について
3 . 学会等名
明治学院大学英文学科言語学講演会(招待講演)
4.発表年
2017年
1. 発表者名
Yoshihito Dobashi
2.発表標題
Interpretability of Syntactic Objects and Prosodic Domains
interpretability of cyntactic objects and rioscure pomanis
3 . 学会等名
LSA (Linguistic Society of America) Institute of 2017, Workshop "Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure:
Universals and Variables"(ケンタッキー大学)(国際学会)
4.発表年
2017年
1.発表者名
土橋善仁
2.発表標題
Syntactic Labels and the Phonological Component
3.学会等名
上智大学言語学会第32回年次大会:ワークショップ "On Externalization, Linearization, Language Variation and the Syntax-
Phonology Interface" (招待講演)
4.発表年
2017年
1.発表者名
土橋善仁
2 7K + 14 GE
2. 発表標題
Phases, Labels and their Phonological Interpretation
3.学会等名
3 . 子云寺石 日本英文学会第89回大会(静岡大学)(招待講演)
ロや大スナムカ 0 ヶ間八云(財門八子 / (1117時/8 /
4 . 発表年
2017年
P*** 1

土橋善仁
2 7V ± 445 B5
2 . 発表標題 Workspace and its Prosodic Consequence
norrespass and the Freedom consequence
3.学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第6回ワークショップ(新潟大学)
4.発表年
2018年
4
1.発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2.発表標題
Domain boundary marking is parametric
3 . 学会等名 The 25th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK(国際学会)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 艾兰+桥旧
2 . 発表標題 Representing domain boundary markers: how and where
map. 355g 35
3.学会等名
The 15th Annual Conference of the French Phonology Network(国際学会)
4.発表年
2017年
1
1.発表者名 Nasukawa, Kuniya
······································
2.発表標題
Phonetic externalisation of head-dependent structure in a modulated-carrier model of speech
3.学会等名 Workshop: Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables. 2017 Linguistic Institute:
Language across Space and Time, University of Kentucky, USA(国際学会)
4.発表年
2017年

1.発表者名

1.発表者名
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2.発表標題
H and L have unequal status
2
3 . 学会等名 Phonology Forum 2017. Minami-Osawa Campus, Tokyo Metropolitan University, Japan (国際学会)
Thomorogy Forum 2017. Withams-osawa bampus, Tokyo wetroportian omiversity, Japan (国际于云)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2 . 発表標題
Asymmetry between the laryngeal primes H and L
3.学会等名
Beyond VOT searching for realism in laryngeal phonology, The 47th Poznan Linguistic Meeting (PLM2017). Adam Mickiewicz
University, Poland (国際学会)
4.発表年
2017年
1 X=20
1.発表者名 Nasukawa Kuniya
1.発表者名 Nasukawa, Kuniya
Nasukawa, Kuniya
Nasukawa, Kuniya 2.発表標題
Nasukawa, Kuniya
Nasukawa, Kuniya 2.発表標題
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名
Nasukawa, Kuniya 2.発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3.学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary,
Nasukawa, Kuniya 2.発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3.学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
Nasukawa, Kuniya 2.発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3.学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4.発表年
Nasukawa, Kuniya 2.発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3.学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
Nasukawa, Kuniya 2.発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3.学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4.発表年
Nasukawa, Kuniya 2. 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3. 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary(招待講演)(国際学会) 4. 発表年 2017年
Nasukawa, Kuniya 2. 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3. 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4. 発表年 2017年
Nasukawa, Kuniya 2. 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3. 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4. 発表年 2017年
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2017年 1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2017年 1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2017年 1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2017年 1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2017年 1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Recursive Merge and elements
Nasukawa, Kuniya 2. 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3. 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4. 発表年 2017年 1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya 2. 発表標題 Recursive Merge and elements
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2017年 1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Recursive Merge and elements
Nasukawa, Kuniya 2. 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3. 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4. 発表年 2017年 1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya 2. 発表標題 Recursive Merge and elements
Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure 3 . 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2017年 1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya 2 . 発表標題 Recursive Merge and elements 3 . 学会等名 Government Phonology Roundtable (GPRT) 2017. Catholic University, Budapest, Hungary (国際学会)

1.発表者名
那須川訓也
2 . 発表標題
2. 光表標題 一値的音韻素性を対象とした回帰的併合
但の日散系はで対象とした自帰的所占
3 . 学会等名
日本言語学会第 155回大会 ワークショップ:音韻部門における回帰的併合
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
Backley, Phillip & Kuniya Nasukawa
2. 発表標題
Segment-internal structure: evidence from vowel reduction
3 . 学会等名
The 15th Old World Conference in Phonology. University College London, University of London, UK(国際学会)
The loth of north compression in Theneropy. Sinversity correspondent, sinversity of Edinasii, sinversity of Edinasii of Edinas
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
那須川訓也
2.発表標題
Linearity in phonology
2 24 42 47
3.学会等名 The City Westerbox on Dhonelessical Externalization of Marphonymtectic Ctructure. Universale and Veriables (DUEVC) 英语士学
The 6th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables (PHEX6), 新潟大学
4.発表年
4 . 完表中 2018年
2010 'T
1.発表者名
Nasukawa, Kuniya
2 . 発表標題
Recursive Merge and phonological features
J. n. 1 - 1 - J. m
3 . 学会等名
Tokyo Conference on Evolinguistics. University of Tokyo, Japan(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2018年

1.発表者名
Hisao Tokizaki and Jiro Inaba
2.発表標題
Prosodic Constraint on Prenominal Modification
3.学会等名
The 39th Annual Conference of the German Linguistic Society (DGfS)(国際学会)
4 . 発表年 2017年
1 . 発表者名 時崎久夫·稲葉治朗
2 . 発表標題 名詞前位修飾と音韻制約
3 . 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異第 4 回ワークショップ
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
Hisao Tokizaki
2. 発表標題
Prosody and branching direction of phrasal compounds
3.学会等名
2017 Annual Meeting of Linguistic Society of America (国際学会)
4.発表年
2017年
1 . 発表者名
時崎久夫・稲葉治朗
2.発表標題
名詞修飾の語順と音韻
3.学会等名
日本言語学会第153回大会ワークショップ「形態統語構造の音韻的外在化」
4 . 発表年 2016年
-5.0

1 . 発表者名 宮下治政・時崎久夫
2 . 発表標題 Ancrene Wisseにおける本動詞と目的語の 相対的語順と借入語
3 . 学会等名 日本英語学会第34回大会
4 . 発表年
2016年
1.発表者名 時崎久夫
2 . 発表標題 語順と語強勢の歴史的変化
0 WAMA
3.学会等名 形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第3回ワークショップ
4 . 発表年 2016年
1.発表者名
Hisao Tokizaki
2.発表標題
Z . 光衣标题 Recursive strong assignment from phonology to syntax
3 . 学会等名 Workshop: Recursion in phonology
4.発表年
2016年
1.発表者名
時崎久夫
2.発表標題
語順の普遍性と音韻論
3 . 学会等名 2016 年度福岡言語学会 (FLC) 第2回例会(招待講演)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名
時崎久夫
2.発表標題
を
3. 学会等名
九州大学英語学研究会(招待講演)
4.発表年
2016年
1.発表者名 藤井友比呂・神山 隆仁・時崎 久夫
膝并及比查·伊山 隆仁·时间 人大
2.発表標題
2. 光花标题 Does Subject-Drop Make Clausal Embedding Harder to Learn? Preliminary Evidence from Japanese Parental Speech
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
3.学会等名
関西言語学会第41回大会
4 改丰左
4 . 発表年 2016年
1.発表者名
時崎久夫
2.発表標題
右側主要部規則と語強勢の類型論
3.学会等名
3.子云寺石 関西言語学会第41回大会(招待講演)
4.発表年
2016年
1.発表者名
Hisao Tokizaki
2 . 発表標題
Stress and word order in English and Korean
3 . 学会等名
2016 International Joint Conference of English Linguistics Society of Korea and Korea Society of Language and Information (切件議論) (国際受合)
(招待講演)(国際学会) 4.発表年
2016年

1.発表者名
福葉治朗
2.発表標題ドイツ語学と生成統語論
177元子C土以称音画
2 44 44 4
3 . 学会等名 慶應言語学コロキアム(招待講演)
後 <i> </i> 窓口四ナコロマノム(1017時/欠 <i>)</i>
4.発表年
2016年
1 英丰本々
1 . 発表者名 土橋善仁
2 ※字価度
2 . 発表標題 外在化における解釈可能性についての一考察
2
3.学会等名
か窓机品構造の目前の外性化・音通性と差異 第3回フークタョック
4.発表年
2016年
1 英丰本々
1.発表者名 土橋善仁
- 2 英字価度
2.発表標題 音韻的外在化と解釈可能性
2 <u>24</u>
3 . 学会等名 日本言語学会第153回大会ワークショップ「形態統語構造の音韻的外在化」
日平百四十五分100円八五フ=フンコップ=形窓統品件足の目限的が住化」
2016年
4
1 . 発表者名 土橋善仁
<u> </u>
2.発表標題
Labels and Interpretation in the Processes of Externalization
2
3.学会等名 慶應言語学コロキアム Labeling Algorithm and Beyond (招待講演)
後 悠日田子コロTァム Labeling Argorithm and Deyond (拍1寸語/英)
4 . 発表年
2017年

1.発表者名
土橋善仁
2 . 発表標題
Labeling and Phonological Phrasing
Labering and individual imasing
3 . 学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第4回ワークショップ
4.発表年
2017年
2017年
1.発表者名
那須川訓也
2.発表標題
Representing moraicity in Precedence-free Phonology
3 . 学会等名
音韻論フォーラム 2016 (国際学会)
A 以中仁
4. 発表年
2016年
1.発表者名
那須川訓也
APARTIME
2.発表標題
The phonetic realisation of asymmetric relations
3.学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第3回ワークショップ (PHEX3)
4.発表年
2016年
1 V=24
1 . 発表者名
Nasukawa Kuniya & Phillip Backley
2 . 発表標題
Moraic segments in syllable-free phonology: the mora nasal in Japanese.
metate segments in syriable free phonorogy. The mora hasar in dapanese.
- WARE
3.学会等名
International conference "Syllables and syllabification: theoretical approaches and pedagogical applications"(国際学会)
4.発表年
2016年
2010+

1.発表者名
Nasukawa Kuniya
·
2 . 発表標題
The structural and informational roles of heads and dependents in phonology
The Structural and Informational roles of heads and dependents in phonorogy
3.学会等名
London Phonology Seminar(招待講演)
4.発表年
2016年
1.発表者名
那須川訓也
MPX THAT
2. 改丰福度
2 . 発表標題
音韻論における回帰的併合
3.学会等名
日本言語学会第153回大会
口华日丽于云苏100四八云
· Water
4 . 発表年
2016年
1.発表者名
那須川訓也
加須川訓巴
2. 発表標題
The dual role of phonology: generating variation and merging elements
3.学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第4回ワークショップ (PHEX4)
4 . 発表年
2017年
•
1
1. 発表者名
Shiobara, Kayono
2 . 発表標題
A phonological approach to interwoven dependency constructions
A phonorogical approach to intermoven dependency constituetions
- WARE
3 . 学会等名
he 8th Spring Forum of English Linguistics Society of Japan (日本英語学会第8回春季フォーラム)(国際学会)
4 . 発表年
2015年
20104

1.発表者名
Shiobara, Kayono
2.発表標題
Are leftness and rightness rightly left in the syntax?: A preliminary study
The formions and rightness rightly for in the syntax. A profilminary study
3.学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第一回ワークショップ
4. 発表年
2015年
1 . 発表者名
Shiobara, Kayono
omobara, Nayono
O 7V = 14587
2.発表標題
A phonological approach to left branch condition: evidence from exceptions in Japanese.
3.学会等名
Formal Approaches to Japanese Linguistics (FAJL) 8(国際学会)
4 . 発表年
2016年
20104
4 77 7 7 9
1. 発表者名
土橋善仁
2 . 発表標題
Some thoughts on the formation of prosodic domains
3.学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第1回ワークショップ
, TV=r
4.発表年
2015年
1.発表者名
Yoshihito Dobashi and Changguk Yim
2.発表標題
A prosodic approach to sentence-medial attachment of discourse particles in Korean and Japanese
A prosourc approach to sentence-medial attachment of discourse particles in Notean and Japanese
2 24 4 4 4
3. 学会等名
日本言語学会第151回大会
4 . 発表年
2015年
·

1.発表者名
土橋善仁
2 . 発表標題
Phonological Phrasing: Cross-linguistic Variation Reconsidered
Finding real Fill astrig. Cross-Tringuistre variation Reconstdered
3.学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第2回ワークショップ
4 . 発表年
2016年
2016年
1.発表者名
Hisao Tokizaki
2.発表標題
Asymmetric Stress and Transfer to PF
3 . 学会等名
25th Colloquium on Generative Grammar(国際学会)
25th 50 roquial on concretive Graillian (EMFZ)
4.発表年
2015年
1 . 発表者名
時崎久夫
n'J m·J ∕ / / √
o Websel
2. 発表標題
音韻的外在化の非対称条件:普遍性と差異
3 . 学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第1回ワークショップ
17窓税品特定の目限577年後、百暦年6年末 第1四フーソンコップ
. W
4 . 発表年
2015年
1.発表者名
時崎久夫
바가 빠야 소스
2 . 発表標題
等位複合語と音韻的外在化
3. 学会等名
形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と差異 第2回ワークショップ
4. 発表年
2016年

4 DE-247
1.発表者名 時崎久夫
2.発表標題
必異原理と等位複合語
3.子云寺石 科学研究費基盤研究(B)「必異原理の射程と効力に関する研究」成果報告会
付子明九貞奉孟明九(b) 少夫原注の別任に別りら明九」成本報ロ云
2016年
20.0
1.発表者名
和葉治朗
1825/8-22
2.発表標題
ドイツ語統語現象における線形性
2 #6###
3.学会等名
「形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と異差」第1回ワークショップ
2015年
2010-
1.発表者名
和葉治朗
2.発表標題
ドイツ語後域の線形化における問題
う・チ云寺石 「 形態統語構造の音韻的外在化:普遍性と異差」第 2 回ワークショップ
が悠然結構迫の自康的外性化・盲應性と共差」第2回ソークショップ
4.発表年
2016年
2010
1.発表者名
Nasukawa, Kuniya
······································
2 . 発表標題
Assimilation and dissimilation in Precedence-free Phonology
2
3.学会等名
The 2nd Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure
4 · 光农中
2010—

1.発表者名
Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
Syllables without constituents: towards melody-prosody integration
Syriables without constituents, towards merody-prosody integration
3.学会等名
The Workshop "Around the syllable: phonetics, phonology and acquisition" (国際学会)
4.発表年
2015年
2010
1

1.発表者名 Nasukawa, Kuniya 2.発表標題 Palatal assimilation and dissimilation in Precedence-free Phonology 3.学会等名 Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables (PHEX) 4.発表年

1 . 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley 2 . 発表標題 The potential for expressing contrasts is greater in structural complements than in structural heads 3 . 学会等名 The 23nd Manchester Phonology Meeting (国際学会) 4 . 発表年 2015年

〔図書〕 計11件

1.著者名 Kunio Nishiyama, Hideki Kishimoto and Edith Aldridge(編)Yim Changguk, Yoshihito Dobashi他(著)	4 . 発行年 2018年
2.出版社 John Benjamins	5.総ページ数 390
3.書名 Topics in Theoretical Asian Linguistics: Studies in honor of John B. Whitman	

4 ***	4 78/-/-
1. 著者名	4.発行年
Nasukawa, Kuniya	2017年
2 . 出版社	5.総ページ数
John Benjamins (Amsterdam)	237 (担当 121-152)
Com Dongamino (vinotoradin)	
3 . 書名	
Bridget Samuels (ed.), Beyond Markedness in Formal Phonology (Linguistik Aktuell).	
1 . 著者名	4 . 発行年
Nasukawa, Kuniya, Phillip Backley & Hitomi Onuma	2017年
2 . 出版社	5.総ページ数
Cambridge Scholars Publishing (Newcastle upon Tyne)	342(担当 216-231)
3 . 書名	
Jiyoung Choi, Hamida Demirdache, Oana Lungu and Laurence Voeltzel (eds.), Language Acquisition	
at the Interfaces: Proceedings of Generative Approaches to Language Acquisition (GALA) 2015.	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	1
1,著者名	4 . 発行年
1.著者名 Nasukawa Kuniya	4 . 発行年 2017年
1 . 著者名 Nasukawa, Kuniya	4 . 発行年 2017年
Nasukawa, Kuniya	2017年
Nasukawa, Kuniya 2.出版社	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya	2017年
Nasukawa, Kuniya 2.出版社	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam)	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2.出版社	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam)	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3 . 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3 . 書名	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3 . 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3 . 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3 . 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris	2017年 5 . 総ページ数
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14).	2017年 5.総ページ数 322(担当 146-162)
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14).	2017年 5.総ページ数 322(担当 146-162)
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14).	2017年 5.総ページ数 322(担当 146-162)
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14).	2017年 5.総ページ数 322(担当 146-162)
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14).	2017年 5.総ページ数 322(担当 146-162)
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3 . 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1 . 著者名 時崎久夫	2017年 5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1. 著者名 時崎久夫	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2 . 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3 . 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1 . 著者名 時崎久夫	2017年 5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1. 著者名 時崎久夫	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1. 著者名 時崎久夫	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3.書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1.著者名 時崎久夫 2. 出版社 開拓社	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3.書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1.著者名 時崎久夫 2. 出版社 開拓社	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3.書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1.著者名 時崎久夫 2. 出版社 開拓社	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3.書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1.著者名 時崎久夫 2. 出版社 開拓社	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3.書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1.著者名 時崎久夫 2. 出版社 開拓社	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3.書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1.著者名 時崎久夫 2. 出版社 開拓社	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年
Nasukawa, Kuniya 2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam) 3.書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14). 1.著者名 時崎久夫 2. 出版社 開拓社	5.総ページ数 322(担当 146-162) 4.発行年 2016年

1.著者名	4.発行年
菊地朗、秋孝道、鈴木亨、富澤直人、山岸達弥、北田伸一、土橋善仁、ほか(全26名)	2016年
2.出版社	5.総ページ数
研究社	303
3.書名	
言語学の現在を知る26考	
	_
1 菜耂夕	1 発仁左
1.著者名	4 . 発行年
日本音韻論学会(那須川訓也 他)	2016年
	<u></u>
2.出版社	5 . 総ページ数
Tank Tank	23 (162-165)
(Finds M. Julie	
2 建夕	
3.書名	
現代音韻論の動向: 日本音韻論学会20周年記念論文集	
1 . 著者名	4.発行年
時崎久夫(中野弘三・昭郅義弘・小野隆啓・西百哲雄 (乾修))	
時崎久夫(中野弘三・服部義弘・小野隆啓・西原哲雄 (監修))	2015年
時崎久夫(中野弘三・服部義弘・小野隆啓・西原哲雄 (監修)) 	
時崎久夫(中野弘三・服部義弘・小野隆啓・西原哲雄 (監修)) 	
	2015年
2.出版社	2015年 5 . 総ページ数
	2015年
2.出版社	2015年 5 . 総ページ数
2.出版社 開拓社	2015年 5 . 総ページ数
2.出版社	2015年 5 . 総ページ数
2. 出版社 開拓社 3. 書名	2015年 5 . 総ページ数
2.出版社 開拓社	2015年 5 . 総ページ数
2. 出版社 開拓社 3. 書名	2015年 5 . 総ページ数
2.出版社 開拓社 3.書名	2015年 5 . 総ページ数
2.出版社 開拓社 3.書名	2015年 5 . 総ページ数
2. 出版社 開拓社 3. 書名	2015年 5 . 総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学・言語学用語辞典	2015年 5.総ページ数 ^{16項目}
2 . 出版社 開拓社 3 . 書名 最新英語学・言語学用語辞典 1 . 著者名	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年
2. 出版社開拓社 3.書名最新英語学・言語学用語辞典 1.著者名	2015年 5.総ページ数 ^{16項目}
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学・言語学用語辞典	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年
2 . 出版社 開拓社 3 . 書名 最新英語学・言語学用語辞典 1 . 著者名	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年
2 . 出版社 開拓社 3 . 書名 最新英語学・言語学用語辞典 1 . 著者名	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編))	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編))	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編))	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編))	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学・言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄・田中真一(編))	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編)) 2. 出版社 開拓社	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社開拓社 3.書名最新英語学・言語学用語辞典 1.著者名時崎久夫(西原哲雄・田中真一(編)) 2. 出版社開拓社	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編)) 2. 出版社 開拓社 3.書名	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編)) 2. 出版社 開拓社	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編)) 2. 出版社 開拓社	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数
2. 出版社 開拓社 3.書名 最新英語学·言語学用語辞典 1.著者名 時崎久夫(西原哲雄·田中真一(編)) 2. 出版社 開拓社	2015年 5.総ページ数 16項目 4.発行年 2015年 5.総ページ数

1.著者名	4.発行年
Nasukawa, Kuniya	2015年
a threat	F W ** > **+
2 . 出版社	5.総ページ数
Mouton de Gruyter	28
3 . 書名	
Representing Structure in Phonology and Syntax	
1.著者名	4 . 発行年
Nasukawa, Kuniya	2015年
2 TT RE \$T	□ 4\\ \^ \\ \^ \\ \\ \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \
2. 出版社	5.総ページ数 19
Wiley-Blackwell	19
3 , 書名	
3 . 書名 The Seament in Phonetics and Phonology	
3 .書名 The Segment in Phonetics and Phonology	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	稲葉 治朗	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授	
研究分担者	(Inaba Jiro)		
	(10323461)	(12601)	
	土橋 善仁	新潟大学・人文社会科学系・准教授	
研究分担者	(Dobashi Yoshihito)		
	(50374781)	(13101)	
研究分担者	那須川 訓也 (Nasukawa Kuniya)	東北学院大学・文学部・教授	
者	(80254811)	(31302)	

6.研究組織(つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	塩原 佳世乃	東京女子大学・現代教養学部・准教授	
研究分担者	(Shiobara Kayono)		
	(30406558)	(32652)	